

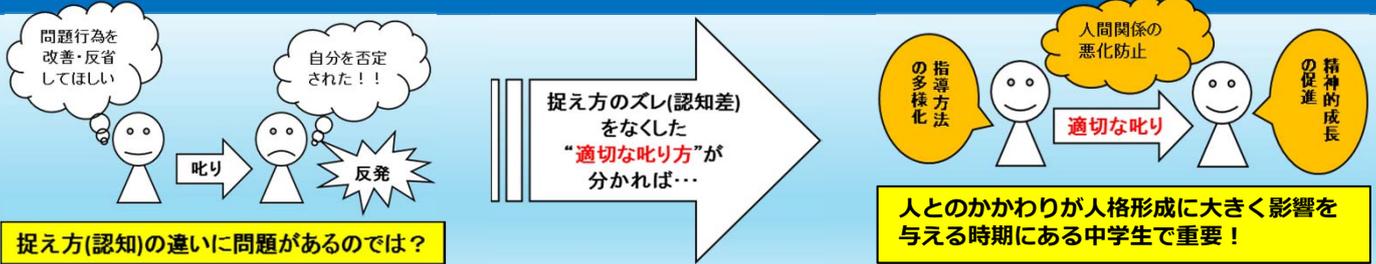
叱り方の違いが受け手の認知的評価と自己成長感に及ぼす影響

－指導的立場の違いと性別に着目して－

宮城学院女子大学心理行動科学科2013年度卒業研究

4年 伊藤安珠

着想の経緯



目的

中学生を対象に、叱りが受け手に及ぼす影響について、指導的立場の違い(教師-生徒・先輩-後輩)と性別(同性間のみ扱う)に着目して検討した。

- 目的① 叱り手が適切と評価する叱り方の検討
- 目的② 受け手が適切と評価する叱り方の検討
- 目的③ 叱りが受け手の自己成長感に及ぼす影響の検討

事前調査

“適切な叱り方”をある程度具体化するために、場面想定法による質問紙調査を行った。

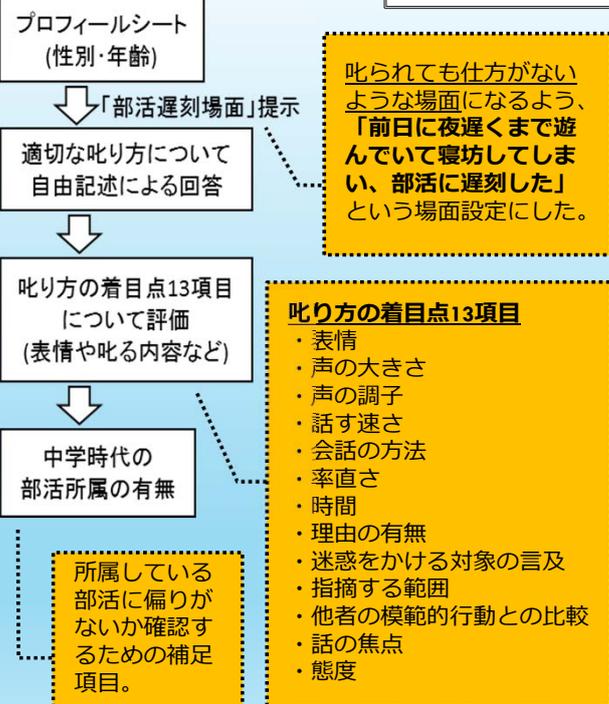
調査対象者(大学生)

質問紙は「教師が生徒に叱る」ものと「先輩が後輩に叱る」ものの、2種類作成した。

| | 男 | 女 | 合計 |
|-------|----|----|----|
| 教師-生徒 | 17 | 21 | 38 |
| 先輩-後輩 | 19 | 19 | 38 |
| 合計 | 36 | 40 | 76 |

質問紙の構成と項目内容

叱る側の立場で回答



結果・考察

選択率が高かった叱り方の着目点13項目

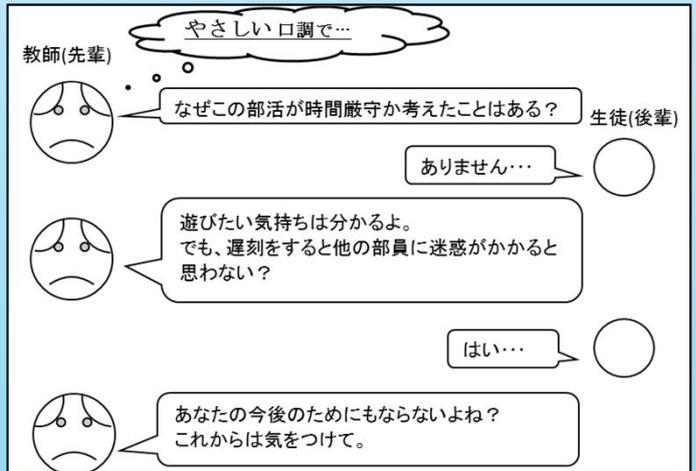
- 表情…困り顔・無表情
- 声の大きさ…普段通り
- 声の調子…優しく・淡々と
- 話す速さ…普段通り・ゆっくり⇒早口にならないならばOK
- 会話の方法…相手の言い分を聞きながら
- 率直さ…さりげなく気づかせるように・単刀直入に
- 時間…3分未満・3分以上～10分未満⇒短時間で!
- 理由の有無…理由を話す・理由を聞く⇒理由を確認すればOK
- 迷惑をかける対象の言及…他の部員
- 指摘する範囲…遅刻に関するのみ
- 他者の模範的行動との比較…比較なし
- 話の焦点…現在・将来⇒過去を持ち出さない!
- 態度…中立的に



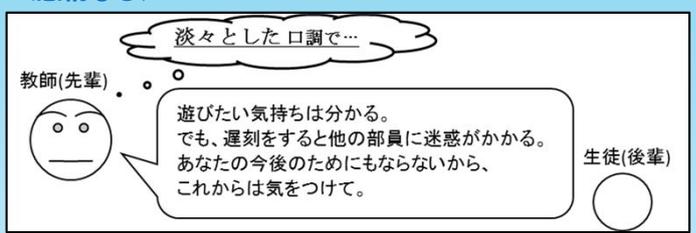
叱り手が適切と考える叱り方には、異なる2タイプが存在することが分かった。⇒これらを本研究で取り上げることとした

- 感情あり(困り顔×優しい口調×さりげなく)
- 感情なし(無表情×淡々とした口調×単刀直入)

<感情あり>



<感情なし>



研究1(目的①の検討)

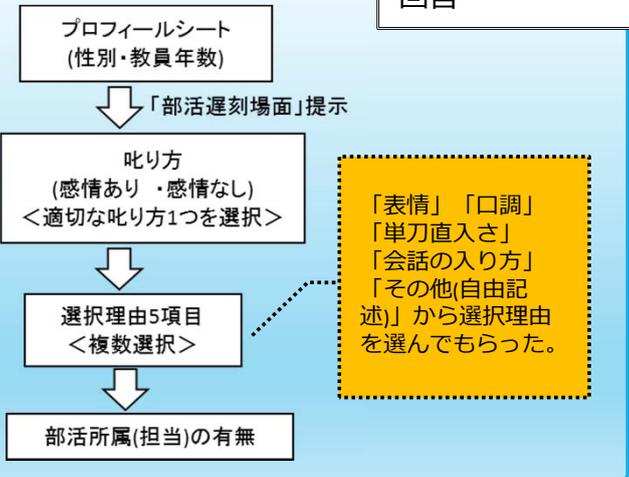
調査対象者(中学教師・中学2年生)

| | 男 | 女 | 合計 |
|---------|----------|----------|----------|
| 教師(対生徒) | 12(12) | 14(13) | 26(25) |
| 先輩(対後輩) | 101(97) | 89(88) | 190(185) |
| 合計 | 113(109) | 103(101) | 216(210) |

()内は記入もれを除外し、分析に用いた人数。

質問紙の構成と項目内容

叱る側の立場で回答



研究2(目的②③の検討)

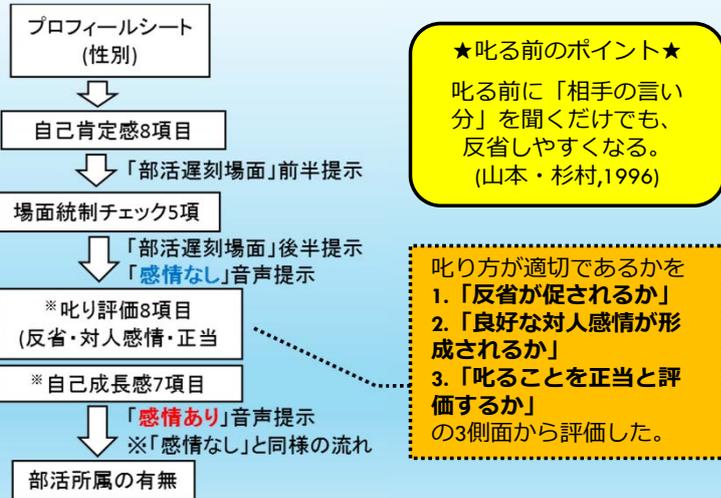
調査対象者(中学1年生)

| | 男 | 女 | 合計 |
|-----------|---------|---------|----------|
| 教師からの叱り条件 | 60(40) | 66(51) | 126(91) |
| 先輩からの叱り条件 | 47(33) | 48(33) | 95(66) |
| 合計 | 107(73) | 114(84) | 221(157) |

()内は記入もれや、研究上の都合で除外し、分析に用いた人数。

質問紙の構成と項目内容

叱られる側の立場で回答

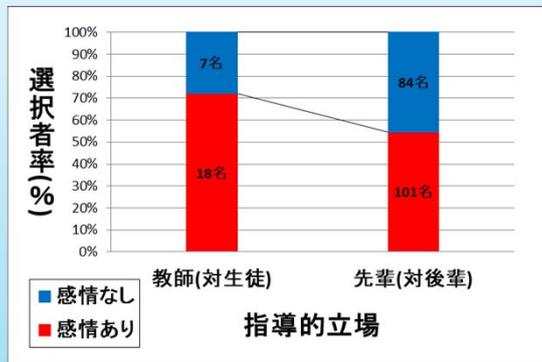


結果・考察

<結果> 適切な叱り方の選択状況

叱り方と指導的立場ごとの割合の差は...

- ・教師：**感情あり**>**感情なし**
- ・先輩：**感情なし**>**感情あり**



<考察>

●指導的立場の明確さが影響?

- ・「教師-生徒」：明確な上下関係
⇒優しく叱っても十分指導になる
威圧感を与えない「**感情あり**」を選択
- ・「先輩-後輩」：曖昧な上下関係
⇒優しく叱ると指導として受け取ってもらえない
指導的立場を強調した「**感情なし**」を選択

結果・考察

<結果>

| | 叱り方の効果 | 叱り方と性別の効果 |
|---------|---------------------------|---------------------------------------------------------|
| 「反省」 | 感情あり > 感情なし | 感情あり のみで、女>男 女子のみで、 感情あり > 感情なし |
| 「対人感情」 | 感情あり > 感情なし | 感情あり のみで、女>男 |
| 「自己成長感」 | 感情あり > 感情なし | 女子のみで、 感情あり > 感情なし |
| 「正当性」 | 感情なし > 感情あり | 感情あり のみで、女>男 |

<考察>

●叱りを予測することが「正当性」に影響?

受け手は「このように叱られるだろう」と予測している。
⇒“予測した叱り方”=「**感情なし**」なのでは?

- 「**感情なし**」...予測通り⇒正当と評価
- 「**感情あり**」...予測より優しい⇒反省や良好な対人感情に繋がる

●性別の効果が見られたことについて

久芳ら(2005)は、人との関わりにおいて女子は男子よりも情緒的な繋がりを重視していることを示唆。
「**感情あり**」...叱り手の感情を読み取ることができる叱り方のため、情緒的な繋がりを感じられたのでは?

●指導的立場の効果が見られなかったことについて

「教師-生徒」といった形式的な関係性ではなく「自分をどのように見ていると思っているか」などで叱りを評価している可能性?

研究のまとめ

より“適切な叱り方”は「感情あり」

教師の多くは、受け手に問題行為の改善や反省を促すような叱り方ができていることが示唆された。

また、女性間において情緒的共有をはかるような叱り方が「反省」や「自己成長感」の促進に有効であることが示された。

●今後の課題

本研究では仮想場面が「部活遅刻場面」と限定的であったことや、男性間でもより有効な叱り方までは分からなかった。また「**感情なし**」で用いた音声刺激が、回答者(叱り手)が想像するよりも厳しいものであった可能性がある。

今後は、学業場面や男性的な特徴に着目した叱り方についても検討していくことや、音声刺激の妥当性を第三者にチェックしてもらう必要があるだろう。



本研究にご協力いただいた方々に、深く感謝申し上げます。ありがとうございました！！